

令和元年度 第 2 回（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討部会 議事概要

1. 開催概要

日時：令和元年 10 月 29 日(火) 10:00～12:00

場所：ホテルモントレエーデルホフ札幌 12 階ベルクホール

次第：

1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3 議事

「（仮称）札幌市建設産業活性化プランの取組について」

・プランの施策項目

・プラン案

4 閉会

出席者・出席機関：

委員：別添「（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討部会委員構成」のとおり

（出席者変更：札幌市除雪事業協会宮浦委員、北海道設備設計事務所協会大島委員）

（欠席：（一社）建設コンサルタンツ協会北海道支部、（一社）北海道建築士事務所協会札幌支部）

札幌市：建設局、財政局、都市局、水道局、下水道河川局

2. 議事概要

(1) 開会

(2) 開会挨拶（小林建設局長）

第 1 回検討部会から 3 ヶ月弱経過したところですが、この間国内では甚大な災害が発生してしまいました。改めて、市民の生命と財産を守る安全で安心なまちづくりには、建設産業の持続可能な体制の確保が重要な課題だと改めて感じているところです。

札幌市においては今月、本市の中期の実施計画であるアクションプラン 2019 の案を公表しました。このプランの中で建設事業費においても年 1000 億以上、4 年間で 4493 億という事業費を示しました。中期的な事業量を札幌市側から示すことで経営者の皆様が設備投資や人材確保など経営判断するための判断材料としていただくことを目的とするものです。

本日は、これまでいただいたたくさんのご意見、全庁的な取組を踏まえまして、プランの中核となる施策などについて、一步踏み込んだ形での素案を提案したいと考えています。

各委員の皆様にはそれぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、よりよいプランを作りあげたいと考えておりますので、ご協力をよろしく申し上げます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

- ・資料確認
- ・出席確認
- ・検討委員会、検討部会スケジュール案説明

(3) 議事

【説明事項】

- ・プランの施策項目
- ・プラン案

【プラン案に対する意見等とそれらに対する札幌市の回答】

< 建設産業のPR事業の推進について >

- ・女性が入る前提で、入ってから働きやすい職場だと強調されているが、その前に女性が、この業界に目を向けてくれる、関心を持ってくれるという方も大事ではないか。
- ・ワクワク！WORK！学校祭に参加し、高校生と接して、非常にPRの効果があったと思った。UAV、ドローンで若い子の関心を引こうと思ったが、昔ながらの測量機械にも半分くらいの生徒は関心をもってくれ、新鮮な機械、機材だということも分かった。
- ・ワクワク！WORK！学校祭において、札幌市の職員も高校生に業界のことを説明されると建設業界のことがご理解いただけるのではないか。
- ・PRイベントを市と建設業界と一緒に取り組むことも大切。メディアを通じて多くの方に見てもらいたいが、なかなかメディアは関心を持って取り上げてくれない。
- ・小学校の測量体験学習会を20年やっても取り上げてくれなかった。
- ・他部局との連携が大切であり、広報さっぽろ等の媒体を用いての広報活動なども取り組んでいただきたい。
- ・SNSに関して、工業高校の学校見学会に参加し、画像をInstagramにアップしたら、来ていた女子高生が「いいね」や「リツイート」をして、他の高校生にも広がって波及効果があることを知った。そういった視点も取り上げていただけたら広がると思う。
- ・広報の仕方については、費用対効果も考えながら多様な方法を検討していただければと思う。
- ・PR事業の推進について、札幌市と業界の共催する新規のPRイベントに関してはぜひとも積極的に取り組んでいただきたいと思う。業界紙のみだけでなく、テレビやラジオ、一般紙など、広く一般の方に周知いただける大規模な展開をしていただきたいということで、一緒に行いたいと思っている。
- ・建設産業の魅力を伝えるPRパンフレットの製作及び活用について、災害の復旧は建設業が担っていることを記憶に留めるため、PRパンフレットの中に災害復旧における写真や記事をもり込んでいただければと思う。
- ・自分の団体でもワクワク！WORK！学校祭に出させていただいたが、全然人が来なかった。また、来ている子が1、2年生であったため、6月くらいに3年生に来ていただければ、就職先の仕事として捉えてもらえるのではないか。

ワクワク！WORK！学校祭に見学させていただいての感想であるが、この学校祭は建設だけではなく色々な産業からの出展があり、非常に多くの学生が参加していたため、普段我々がターゲットにしていない人たちが建設の魅力に触れていただける機会だったと思う。

建設関係の勉強をしている学生をターゲットにしたイベントが多いが、普通科高校も含めて広い範囲でやることで、新たな担い手を確保するきっかけになるのかと思う。

< 週休 2 日について >

- ・週休 2 日について、週 5 日になると賃金を 1.2 倍もらわないと割に合わなくなる。週休 2 日の実施にはここが一番ネックになり、零細企業にはこれができなくて週休 2 日にできない。
- ・金額に関して、札幌市独自で例えば 1 割、5%を見るということ具体的な予算に盛れないか。あるいは、年間 1 部局 1 工事とか 2 工事を週休 2 日工事とし、労務単価も 1 割多く見る模範工事のような感じで発注をしていただけるよう、具体的な予算をつけていただきたい。

労務費については、国の方で 11 月に労務費調査を行い、この結果をベースに決定されるため、皆様も調査の中で実体を反映していただきたい。国が設定した労務単価を札幌市も適用している。週休 2 日の試行工事を進めるにあたっては、労務費、経費についてもそれに見合った形で補正をしているが、すぐ 2 割にあたるかということそうはなっていない状況。今後試行工事を進めていく際に、アンケートをとって、週休 2 日試行工事をどのように進めていくかについても検討していきたいと考えている。

- ・週休 2 日工事達成時の工事成績の加点などの取り扱いについては工事の性質上適用できない工事が不利とならないよう配慮すると謳っていただいているが、災害復旧工事も同様で一日も早い復興復旧が必要なので、そういった点を是非ご反映いただければと思う。

< 施工時期の平準化について >

- ・外で働く人は雪のある中では除雪くらいしかできない。早期発注して、雪解け直後の 4 月から施工できれば、ガードマンの問題も含め、いろいろな面で解消されると思う。
- ・今までも少しずつ変えていただいているようで、発注も早くなっている部分もあるが、市の体制ができないから施工を待てるということがあるので、平準化に向けたものの考え方で市の体制を考えていただきたいと思う。
- ・労働力確保のためには、高い給料が必要と思っているが、例えば冬に工事をやるとどうしても同じ工事でも儲けが少なくなることも多いので適正工期などの配慮も願います。

< 作業効率化の推進について >

- ・工事書類の数が多いほど評定点や表彰に有利ではないかという気がするため、評定点の出し方について書類の比率を下げていただくなど、働き方改革に逆行しないやり方をしていただきたい。

設備関係で電気設備業界と機械設備業界にアンケートをとっており、工事書類の削減の必要などところや要望事項をまとめているので、それを受けて、工事管理室と打合せしながら検討を進めていきたい。まず都市局の方で試行的にやってみて、それが良ければ全庁的に波及させたいと思っている。

- ・書類の簡素化は札幌市の問題ではなく、会計検査員の指摘に対応するため増えている部分もあると思う。

< 労働時間縮減に向けた取組の推進について >

- ・労働時間縮減に向けて、各企業の週休 2 日の確保または年間トータルでの休暇の取得の推進とあるが、除雪業者、北海道、札幌に関しては夏と冬の仕事内容が違うということがあり、週休 2

日と働き方改革に関して中央からの話を札幌市の企業に無理にはめ込む必要はないのではないか。

- ・夏場の仕事から 12 月までは現場をしながら、雪が降ったら寝ないで除雪をしながら昼も夜も動くことは確かにある。ただ、除雪が始まってしまうと、1 月 2 月は繁忙期があるけれども、3 月 4 月になると労務者が働いているという状況ではほぼない状態。こういう状況をふまえると、年間の休暇の取得は十分確保されているのではないかと思う。
- ・あまり働き方改革の週休 2 日にとらわれないでいただきたい。あまりこちらの業界に押しつけられると動きづらくなる部分がある。単価の回答がしっかり出たからその話をしてほしい。
- ・基本的には年間変形労働時間制を採用されている企業が多い。基本的に暦どおりの土日を休んで週 40 時間を続けていれば特段の届け出が要らないが、そうならないのは冬のことがあったりするためである。
- ・完全週休 2 日制をとって、週 40 時間労働を達成し、最低年間有給 5 日取得や年末年始を休んだりすると、仕事に携わる時間が極端に少なくなってしまう。効率化を進めていても追いつかない状況なので、週休 2 日にこだわるのは厳しいというのが我々の現状ではないかと思う。この辺の労働法その他に係る部分も考慮しながら検討していただきたい。

< 担い手の確保について >

- ・除雪業界の担い手確保に向けて、小学校などに除雪機を持ち込んで体験してもらう取組をやっているが、全体的に取組は少ない状況。
- ・全国の大学で土木科が少ない状況で担い手を増やしたいと言っても増やせないのではないか。土木の仕事というものを若い人にもっと知っていただかなければならないのではないかと思う。
- ・オリンピックがもし札幌で行われるのであれば、夢があって、我々業界が活躍できる場が増えると思うので、建設業の活性化になるのではないか。
- ・下水道の関係では非開削で新たに管を入れてリニューアルする工法をやっており、更新事業の半分くらいはそういう工法になっている。その工法を通じて PR 活動などを大学・高校での実演をやっているが、専門の学科、専門学校の数が少なくなっている。今後受け皿となる学校・学科を確保していただくということも、大事ではないか。
- ・担い手確保の関係で、中途採用で採用しても、別の企業に移られるなど、各企業で技術者を取り合っている状況があると思う。企業がお互いにつぶし合いするわけではないので、新しい人材を確保するのが第一である。
- ・企業にとっても世代交代が必要になるため、若い人材を確保するためいろいろな手だてを考えていかなければならない。

< 中高年労働者について >

- ・どちらかというと若い人を対象にしたプランだけれども、現在の中高年を主体とする労働者の働き方改革等に対する取組が少ないため、何かを加えてもらえればいいのではないか。

< 助成制度の拡充について >

- ・若い方が免許を取得しても中型車両を運転できないので、既存の助成制度の見直しで、大型免

許・中型免許への拡大を検討するとなっていて、以前要望したものがこのように文章になっていてありがたい。

<女性の活躍推進について>

- ・女性の活躍を推進した方がまずいいのではないかと。弊社でも女性が増えているが、2~30年前に比べてシングルファザー、シングルマザーが多い。そういう方が就労されると、小さい子供たちを預けることができないので、フルの8時間働けない。我々の仕事の多くはチームでやっていることが多いので、1人2人だけがそういう状況では活躍いただく場がない。
- ・児童、幼児を預かる場所を増やしていただく、または建設業界は有利に預けられるということを考えていただけないか。
- ・女性活躍の魅力発信強化について、我々も、女性の技術者、並びに女性の作業員の方を多く採用していきたいと考えている。業界団体、並びに市の方とも協力をしながら、なにをどうしてやっていけばいいか考えながら取り組みたいと思っている。

<総合評価方式の評価点について>

- ・多様な入札契約制度の活用で総合評価方式を重点的に取り上げているが、我々の分野では基準になる評価点を昔からの持ち点で持っている方が多く、総合評価で落札する業者はほぼ2社か3社に限られてしまう。業界によっても違うと思う。

<適正な予定価格の設定について>

- ・適正な予定価格の設定については、我々の業界が市の担当部局と話をさせていただいていることが文章化されて、大変ありがたい。今後これをきちっと実施していただきたい。
- ・適正な予定価格の設定を解決してくれれば単価の問題もある程度解決するのかなという部分がある。92%を切る程度の数字で平均の落札の数字がでていると思うが、せめて95%を越える落札率にさせていただく施策をしていただければ、企業の適正な利潤の確保が可能になると思う。適正な予定価格の徹底については、できるだけ早い時期に図っていただければありがたい。

<中長期的な事業量の確保について>

- ・中長期的な事業の確保に関して、アクションプラン2019の案に具体的な4年間の建設事業費を明文化していただいているのはありがたい。
- ・事業を確保していただくのも当然ながら、中堅クラスの企業の工事量を確保していただくのが第一と考えている。

<改正品確法への対応（特に災害への対応への配慮）について>

- ・公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）の改正品確法が今年6月に公布施行になった。改正のポイントは、災害への対応、働き方改革、生産性向上の必要性、調査設計の重要性で、全国的な災害頻発も背景に、迅速な災害からの復旧復興のため、災害時の緊急対応の充実強化が急務だと位置づけされている。発注者の責務として、1番目に緊急性に応じて随意契約、指名競争入札等、適切な入札契約方法を選択すること、2番目に建設業者団体等との

災害協定の締結が謳われている。

- ・札幌市との連携協定の体制は、連携協定に協力して下さる会員企業を中心に 10 区に割り振りし、いざという時に臨機に対応できるようにということを含めて、訓練等を実施している状況。ただ、市内本店業者ばかりではなく、大手コンサル等とも連携協力の体制をとってきた状況。
- ・平成 30 年北海道胆振東部地震では、札幌市からの要請もあり、会員企業に緊急対応に協力してくれる企業は手を挙げてくださいと話をしたが、国も道庁も災害対応をしなければならないということで、そちらの対応に回った企業は残念ながら応援できませんということで、手を挙げてくれた企業の情報を札幌市にご提供した。市内本店業者のほかに大手コンサル等も協力してくれており、そういうことがなければ、臨機の災害対応はうまくいかなかったと思っている。
- ・活性化プランにおける取組目標「地域貢献等に取り組む企業の支援」や施策の「地元企業の受注機会の確保」において、臨機の災害対応もふまえた中で、平常時における発注や連携を考えていただく必要がある。

< 下請契約の適正化について >

- ・下請の立場では、法定福利費などは確実にもらえていない部分が多かったり、標準見積書を出しても受け取ってもらえない場合がある状況のため、札幌市としても、下請が出したものをきちっと元請がもらっているかということもチェックしていただく必要があるのではないかと。
- ・下請も儲からないと結果的に人を雇えない。60 代の職人さん達は 5 年後には離職されているが、今、若い人たちは全然入ってきていない。組合としてもハローワークを通して全道 250 校に求人票を出しているけれども、全く来ない状況であり、組合員で来年卒業する高校生を入れようとしている会社をみると、社長が学校を自ら回っているのが実態である。しかし、小さな業者ばかりで社長が現場に出る会社が多いので、そこまで手が回らないという中で、あと何年かすると職人さんがいなくて廃業が増えてくることを懸念している。何とか下請としても生きていける形がないと難しい。
- ・塗装の業種は元請の部分もあるけれども、その中でやれるのは半分以下ぐらいに限られているので、今後そういう意味で人がいないというのが切実に厳しいと思う。

< 関連業界との連携強化について >

- ・雑踏警備や交通安全という関わりを持つ関連業界がこのプランに盛り込まれよかった。
- ・災害防止協力会という全区で 458 社加盟している協議会があり、この会に参画できると、話が見えるのではないかと。

< 外国人労働者について >

- ・国主導で外国人労働者採用という政策が進められているが、合法的に中小企業がこれを積極的にやろうとすると、時間や金銭的なものの負担が多い。

(4) 閉会

本日いただいたたくさんの意見を踏まえまして、内容を修正し、プラン作成を進めていきます。今後は検討委員会でさらにご議論いただいて、庁内調整、議会の議論、パブリックコメントと

いう手続きを経て来年春のプラン作成を目指して進めます。皆様には随時その状況等について情報提供するので、引き続きご協力、またご意見等を事務局に連絡をいただければと思います。

このプランの役割は、単に札幌市が行うべき取組を示すというのではなく、札幌市と建設産業に関わる方々が担い手不足などの課題を解決し、建設産業を活性化するための共通の指針としての役割と考えています。

来年度にはこの検討部会と同じ体制で意見交換会を開催して、これらに具体的にどう取り組むかについて意見をいただきながら進めたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また今後、各業界団体や各企業がどのように取組を進めていけばいいのか、札幌市と両輪となって進めていくために業界は何をやり、また札幌市には何を求めるか、業界の中でも議論いただければと考えています。

このプランの策定は今後の建設産業活性化に向けた取組の始まりだと考えています。今後ともみなさまのご協力を賜りながら、市と業界が両輪となって取組を進めていければと考えておりますので、引き続きご理解ご協力をお願いします。